

5. 招待講演・シンポジウム

(学術集会・大会・公的な研修会のみ記載，一般・民間企業主催は除く)

1. 森岡 周

(講演) 病態に応じたニューロリハビリテーションの実際

第 39 回鹿児島高次脳機能研究会 2024 年 4 月@鹿児島

脳卒中後の運動・動作障害，高次脳機能障害に関する病態分析・把握・解釈の手続きを説明し，ニューロロハの実際を紹介した。

2. 高村優作

(講演) 半側空間無視の症候と回復過程のより深い理解に向けて

第 47 回 脳機能とリハビリテーション研究会 Web 勉強会 2024 年 4 月@Web

半側空間無視の症候およびその回復ダイナミクスを理解するために必要な視点について議論した。

3. 信迫悟志

(シンポジウム) 不器用さへの探求 (研究の知見から)

第 7 回日本 DCD 学会学術集会 2024 年 4 月@大阪

本発表者らが明らかにした DCD の病態理解とリハビリテーション介入に関する知見について紹介し議論した。

4. 藤井廉

(講演) 痛みの運動学的評価

第 28 回日本ペインリハビリテーション学会学術大会プレコングレスミニレクチャー 2024 年 4 月@Web

疼痛有訴者の運動異常を評価する上で必要な視点について議論した。

5. 重藤隼人

(講演) 疼痛治療としての徒手理学療法 of 最新エビデンス

第 28 回日本ペインリハビリテーション学会学術大会プレコングレスミニレクチャー 2024 年 4 月@Web

徒手理学療法のエビデンスおよび痛みの病態分類を考慮した適応・鎮痛メカニズムについて議論した。

6. 田中陽一

(講演) ペインマネジメントとしての作業療法の実践

第 28 回日本ペインリハビリテーション学会学術大会プレコングレスミニレクチャー 2024 年 4 月@Web

ペインマネジメントにおける作業療法の役割および評価手法などについて議論した。

7. 森岡 周
(シンポジウム) 身体性の科学に基づくこれからのリハビリテーション医療とは？
第 61 回日本リハビリテーション医学会学術集会 2024 年 6 月@東京
精密医療のための病態把握・意思決定プロセスを紹介した後，運動主体感を生成させる各種テクノロジーを用いたリハビリテーションを紹介した．加えて，ナラティブ・エンボディメントの概念を説明した．
8. 西 祐樹
(シンポジウム) 物理療法の新機軸ーしびれ感に対する治療ー
第 28 回日本ペインリハビリテーション学会学術大会 2024 年 6 月@長崎
しびれ感について概説するとともに，物理療法の新機軸としてしびれ感に対する新規介入戦略について議論した．
9. 岡田洋平
(講演) パーキンソン病の標準的理学療法プログラムのまとめ方
～バランス障害：反応的姿勢制御の例示～
第 17 回パーキンソン病・運動障害疾患コンgres 2024 年 7 月 @埼玉
パーキンソン病遠隔リハビリテーション研究会において，パーキンソン病の標準的理学療法プログラムのまとめ方の基本方針とその例について話題提供し，議論した．
10. 森岡 周
(講演) 理学療法士のための脳科学入門～姿勢・バランス～
令和 6 年度佐賀県理学療法士会講習会 2024 年 7 月@Web
姿勢制御に関与する，感覚系，感覚組織化，認知資源・戦略，協同収縮系（シナジー）について解説した．
11. 高村優作
(シンポジウム) 脳卒中後の回復の神経生理学的メカニズムの理解：半側空間無視の回復過程を例として
第 26 回日本薬物脳波学会学術集会 2024 年 7 月@京都
脳卒中の回復過程における神経生理学的機序ならびにそれをバイオマーカーとして理解することの重要性について議論した．
12. 信迫悟志
(講演) 子どもの運動の不器用さ（発達性協調運動障害 DCD）に挑戦する
第 33 回奈良県理学療法士学会 2024 年 7 月@奈良
本発表者らが明らかにした DCD の病態理解とリハビリテーション介入に関する知見について紹介し，これからの課題について提案した．

13. 尾川達也

(講演) 患者の想いを考慮した理学療法の実践～Shared Decision Making
という新しい同意の取り方～

第 33 回 奈良県理学療法士学会 2024 年 7 月 @ 奈良
日々の臨床の中で EBM を実践する際、どのように患者の想いを統合するのかについて、
Shared Decision Making を概説しながらその方法について提案した。

14. 尾川達也

(シンポジウム) 要介護高齢者の自律性が尊重されるためには？～リハビリ
テーション専門職からの提言～

第 3 回日本老年療学会. 2024 年 8 月 @ 北海道

要介護高齢者の自律性が尊重されるために、老年療法全体としてどのような取り組み
が必要なのかについて、リハビリテーション専門職から提案を行った。

15. 古賀優之

(講演) 生物心理社会モデルに基づいた疼痛の「理解」

兵庫県理学療法士会 阪神南 (西宮・芦屋) 支部 研修会 2024 年 8 月 @ Web
疼痛の定義、メカニズムに基づいた分類とそれぞれの病態に応じた評価・介入に関連
する報告をレビューし、臨床実践を疼痛の病態理解について議論した。

16. 水田直道

(講演) 脳卒中後歩行再建に向けた理学療法

大分県理学療法士協会 実技研修会 2024 年 9 月 @ 大分

脳卒中患者の歩行障害の病態について概説するとともに、病態を理解するための評価
方法や個別最適に向けた介入戦略について議論した。

17. 西祐樹

(講演) 異常感覚を紐解くー疼痛やしびれ感の病態および介入戦略ー

第 33 回 鹿児島県作業療学会 2024 年 9 月 @ 鹿児島

神経障害性疼痛やアロディニア、しびれ感の病態について概説するとともに病態に基
づいた介入戦略について議論した。

18. 西祐樹

(講演) 異常感覚に対する経皮的電気神経刺激の試み

第 22 回日本神経理学療法学会学術大会 2024 年 9 月 @ 福岡

しびれ感の特性や病態について概説し、しびれ感に対する介入手法であるしびれ同調
経皮的電気神経刺激の介入効果や今後の展開について議論した。

19. 高村優作

(シンポジウム) 神経理学療法の高精度化にむけて

第 22 回日本神経理学療法学会学術大会 2024 年 9 月 @ 福岡

人工知能や Society5.0 の時代における神経理学療法にどのような視点が必要だろう
か？という点について、機械学習などを用いた自身の脳卒中研究の視点などから議論
した。

20. 乾康浩

(シンポジウム) 歩行評価の現場実装までの道のりー計測環境の構築・解析方法の習得と不整地路面の作成ー

第22回日本神経理学療法学会学術大会 2024年9月@福岡

歩行計測の現場実装までに必要な考え方や準備に関して自身の経験をもとに説明した上で、今後のリハビリテーション場面で必要な歩行計測のあり方について議論した。

21. 林田一輝

(シンポジウム) AI・ロボット利用における責任の所在は？

第22回日本神経理学療法学会学術大会 2024年9月@福岡

AIやロボット利用における「その行為を自分が行ったものなのか？」という視点で、主にセラピスト側の問題を提起し議論した。

22. 尾川達也

(シンポジウム) AI・ロボット利用における責任の所在は？

第22回日本神経理学療法学会学術大会 2024年9月@福岡

ロボットを用いた脳卒中患者への歩行練習に焦点を当て、臨床現場にテクノロジーを融合していく際の心理社会的要因の存在や主体感がより得られる合意形成方法について提案した。

23. 森岡 周

(講演) 間主観性と身体同調-患者と療法士の協働経験による自己の再構築ー

第22回日本神経理学療法学会学術大会 2024年9月@福岡

フッサーやメルロ=ポンティの哲学的見解を用いた理学療法の臨床のあり方について概説した。

24. 山崎雄一郎

(講演) 運動失調を呈する脳卒中者への評価と介入

(一社)牧方市理学療法士会主催勉強会 2024年7月@Web

脳卒中に伴い生じる運動失調に対する客観的な評価指標、予後予測を踏まえた目標設定の立案について、臨床上での配慮点を交えて議論した。

25. 藤井 廉

(講演) 産業理学療法に必要な痛みの基礎知識

愛知県理学療法学会 教育研修部第2回研修会 2024年10月@Web

産業理学療法を実施する上で必要と思われる痛みの基礎知識について、就労者の特性や労働環境に対する個別性を交えて議論した。

26. 佐藤剛介

(講演) 神経障害性疼痛に対するリハビリテーション

第 22 回日本神経理学療法学会学術大会 2024 年 9 月@福岡

神経障害性疼痛の定義，疫学，病態について概説し，神経障害性疼痛に対する介入について紹介した。

27. 佐藤剛介

(講演) 脊髄損傷による機能障害と病態

第 22 回日本神経理学療法学会学術大会 2024 年 9 月@福岡

脊髄損傷の機能障害の種類やその解釈，その背景にある病態について解説した。

28. 岡田洋平

(講演) パーキンソン病の基本動作をどのように捉え，介入するのか

(公社) 埼玉県理学療法士会令和 6 年度神経難病リハビリテーション推進委員会 平日難病セミナー 2024 年 9 月@Web

パーキンソン病の日常生活動作に対するリハビリテーション介入戦略と各基本動作に対する理学療法について臨床思考，実践の具体例も挙げながら解説した。

29. 岡田洋平

(講演) パーキンソン病に関連する神経系の構造と機能

第 22 回日本神経理学療法学会学術大会 2024 年 9 月@福岡

パーキンソン病に関連する神経機構と基本的な病態について，教育講演で解説した。

30. 岡田洋平

(講演) 近未来の神経理学療法と技術革新：パーキンソン病への挑戦

第 22 回日本神経理学療法学会学術大会 2024 年 9 月@福岡

技術革新の進歩が著しい中，近未来の神経理学療法をどのように拓いていくことができるのかについて，パーキンソン病の理学療法を例示して話題提供した。

31. 宮脇 裕

(シンポジウム) 拡張された運動を“自分が制御している”と感ずるために

第 29 回日本基礎理学療法学会学術大会 2024 年 10 月@東京

「ロボットと VR を用いた理学療法の本質」というシンポジウムテーマに対し，運動主体感の観点から話題提供した。

32. 森岡 周

(シンポジウム) 学術・臨床統合型理学療法教育システムの構築

—大学と民間臨床機関の戦略的連携モデル—

第 29 回日本基礎理学療法学会学術大会 2024 年 10 月@東京

スマートリハビリテーション時代に高次理学療法を実現する戦略において，大学と臨床機関の有機的な融合モデルを紹介した。

33. 水田直道

(講演) 脳卒中後歩行再建に向けた理学療法

宮崎県理学療法士協会 2024 年 11 月@宮崎

脳卒中患者の歩行障害の病態を理解するための評価方法や個別最適に向けた介入戦略について概説するとともに、介助歩行の実技について議論した。

34. 大住倫弘

(シンポジウム) リハビリテーション領域におけるバーチャルリアリティ技術の実装

第 43 回日本疼痛学会 2024 年 11 月@東京

VR 技術がリハビリテーションに必要な理由を説明した上で、疼痛リハビリテーションにどのように実装されるべきかを議論した。

35. 信迫悟志

(講演) 神経発達障害の病態理解と重要な評価

第 11 回日本小児理学療法学会学術大会 2024 年 11 月@福島
神経発達症 (DCD, ASD, ADHD, SLD) についての現在の病態理解と重要な評価法について紹介し議論した。

36. 西 祐樹

(講演) 立位・歩行データ解析

日本物理療法学会 初学者向けデータ解析集中セミナー2024 年 11 月@奈良
初学者向けに立位および歩行のデータ計測から解析まで、実技を交えて解説した。

37. 尾川達也

(講演) 高齢者支援に求められる自立と自律の視点

第 11 回日本地域理学療法学会学術大会 2024 年 11 月@大阪

高齢者や要介護高齢者に対して、尊厳が保持された理学療法を地域の中で実践するための視点について解説した。

38. 平川善之

(シンポジウム) 疼痛の慢性化に対する予防理学療法

第 11 回日本予防理学療法学会学術大会 2024 年 11 月@仙台

疼痛の慢性化要因を紹介した上で、各要因の評価方法と対処方法を紹介し、実際の症例を通して実践例を開示した。

39. 重藤隼人

(講演) 痛みの病態分類に基づいた評価ツールの臨床応用

第 12 回日本筋骨格系徒手理学療法研究会学術大会 2024 年 11 月@神奈川

痛みの病態分類に基づいたメカニズムおよび関連する評価ツール、介入方針について解説した。

40. 蓮井成仁

(講演) 動作分析・筋電図

第 13 回日本支援工学理学療法学会学術大会 2024 年 12 月@東京

動作分析および筋電図に関わる基本的な知識と考え方について、実技を交えて解説した。

41. 岡田洋平

(講演) パーキンソン病の地域ケア～理学療法の役割の再考～

三重県理学療法士会令和 6 年度推進リーダーアドバンス研修会

2024 年 12 月@三重

パーキンソン病の疾患、障害の経過、理学療法の効果に関するエビデンス、地域ケアにおける理学療法の役割について解説した。

42. 信迫悟志

(シンポジウム) 神経発達障害に対する確率共鳴現象の活用可能性

第 45 回バイオメカニズム学術講演会 2024 年 12 月@東京

神経発達症児に対して確率共鳴デバイスを適用した研究について紹介し、他のシンポジスト共に議論した。

43. 森岡 周

(講演) 身体性と自己意識から考えるリハビリテーション

第 8 回肢体不自由児セミナー

人間の発達過程における自己意識と行為の創発に関する見解に触れ、間身体性、物語性とリハビリテーションの関係について解説した。

44. 森岡 周

(講演) 2040 年へのバックキャストイング-人機一体ケアとナラティブ・エンボディメント-

第 32 回埼玉県理学療法学会 2025 年 1 月@埼玉

2040 年における到達点のイメージを共有し、人機一体ケア、ナラティブ・エンボディメントの世界観について話した。

45. 藤井慎太郎

(講演) 脳卒中症例の姿勢制御

奈良県理学療法士協会 2024 年度脳卒中リハビリテーションコース 2025 年 1 月@奈良

「立位姿勢制御」の基本的な考え方や脳卒中患者における姿勢制御のメカニズム、評価方法について解説した。

46. 尾川達也

(講演) 生活期におけるセルフマネジメントの重要性
奈良県理学療法士協会 2024年度脳卒中リハビリテーションコース 2025年
1月@奈良
在宅脳卒中者に対するリハビリテーションを実践する際の基本的な考え方として、セ
ルフマネジメントの視点を解説した。

47. 藤井慎太郎

(シンポジウム) 効果的な病態把握と介入指針のための評価方法の提案
ーバランス障害の観察と評価ー
第7回日本神経理学療法学会 SIGs 参加型フォーラム 2025年2月@大阪
「立位姿勢制御」のメカニズムについて解説し、バランス障害を評価する上での病態
把握のための考え方や臨床でのバランス障害の評価の進め方について提案した。

48. 井川祐樹

(シンポジウム) エビデンスと臨床知を融合させた具体的な介入手段・手順
の共有ー中枢性神経障害性疼痛の介入と手続きー
第7回日本神経理学療法学会 SIGs 参加型フォーラム 2025年2月@大阪
中枢性神経障害性疼痛の具体的な評価とそれに基づいた治療について、実症例を
通しながら評価ー治療の手順を提案した。

49. 大住倫弘

(シンポジウム) 中枢性疼痛の観察と評価
第7回日本神経理学療法学会 SIGs 参加型フォーラム 2025年2月@大阪
「中枢性疼痛」のメカニズムや評価について解説し、病態把握のための考え方や臨床
での評価の進め方について提案した。

50. 尾川達也

(講演) 地域理学療法における Shared Decision Making の実践
第64回近畿理学療法学会@奈良
対象者の主体的な暮らしを支援するために地域理学療法で求められる意思決定方法と
して、Shared Decision Making について解説した。

51. 森岡 周

(講演) アイデンティティとリハビリテーション-私らしさの復権とは-
財団法人 訪問リハビリテーション管理者研修会. 2024年2月@WEB
自己の哲学・科学を解説し、自己の生成モデル・メカニズムの観点から、リハビリテ
ーションモデルを提言した。

52. 森岡 周

(講演) 理学療法の実践の再考-エビデンスとナラティブの融合による実践の進化-

本講演では主に、科学は仮説と反証により知見を進化させること、実証主義と解釈学を超えた縦断データと現象学的視座を融合すること、患者の行動・機能・環境の循環と自己再構築を間身体性とナラティブ・エンボディメントで捉え、エビデンスと臨床協働により慣習医療から脱却した理学療法を構築することを解説した。

53. 西 祐樹

(シンポジウム) しびれ感に対する物理療法の新規介入戦略

日本物理療法合同学会大会 2025 2025 年 2 月 @愛知

しびれ感に対する新規介入戦略であるしびれ同調経皮的電気神経刺激を概説するとともに、新しい知見を共有し、議論した。

54. 平川善之

(教育講演) 関節の痛みを広い視野で捉える「疼痛の評価」

日本運動器理学療法学会 第 7 回ブロック学術小集会 2025 年 2 月 @福岡
運動器疾患により痛みを有する患者の評価と実際の治療について、特に感作の評価とその結果に基づく介入を中心に開設した。

55. 中尾章吾

(講演) 三重県支援工学理学療法研修会 2024 年 11 月 @三重

脳卒中患者に対する長下肢装具の介助方法の実技について解説した。

56. 植田耕造

(講演) 脳卒中後の立位・歩行時のバランス障害の評価とアプローチ

山口県理学療法士会 令和 6 年度定期理学療法研修会(神経領域) 2024 年 10 月 @Web

脳卒中後の立位・歩行時のバランス障害に対する評価とアプローチ方法に関する報告をレビューし、具体例を交えて解説した。

57. 植田耕造

(講演) Lateropulsion の病態理解と介入戦略

第 6 回道南理学療法士学術研修大会 2025 年 1 月 @Web

脳卒中後に生じる lateropulsion の病態を先行研究より整理し、病態に応じた介入戦略の例を解説した。

58. 植田耕造

(講演) 脳卒中後のバランス障害と感覚戦略

京都府理学療法士会伏見2・山科支部 研修会&交流会 2025年2月@医仁会
武田総合病院リハビリセンター

脳卒中後のバランス障害に関して、感覚戦略の側面を中心に評価、介入方法を実技も交えて解説した。

59. 岡田洋平

(講演) パーキンソン病の基本動作能力に対する理学療法 ～エビデンス、介入戦略、未来へ～

多職種連携PD患者の真のQOL向上を考える研究会 2025年2月@大阪

パーキンソン病のADL障害に対するリハビリテーションの効果に関するエビデンスと、基本動作能力低下に対する理学療法の介入戦略と発展可能性について解説した。

60. 岡田洋平

(講演) 標準的理学療法と個別的アプローチをどのように融合するか

第33回日本神経理学療法学会サテライトカンファレンス富山 2025年3月@
富山

パーキンソン病の多様な臨床像とその変化、疾患早期の理学療法、障害に対する理学療法の実践(歩行障害・すくみ足を例示)について教育講演で解説した。

61. 森岡 周

(講演) ヒューマン・テクノロジー・ナラティブの交差点

-医工学が導く新たなリハビリテーションの地平-

BioMecForum 第109回研究会 2025年3月@大阪

本講演では、AIやロボティクス、ウェアラブルデバイスなどの革新技术が生み出す「人機一体ケア」と、患者の身体的・心理的回復を支える「ナラティブ・エンボディメント」の融合に焦点を当て、この2つの視点を統合しながら、臨床現場での応用例や、患者一人ひとりのウェルビーイングを最大化するための新しいケアモデルを提示した。